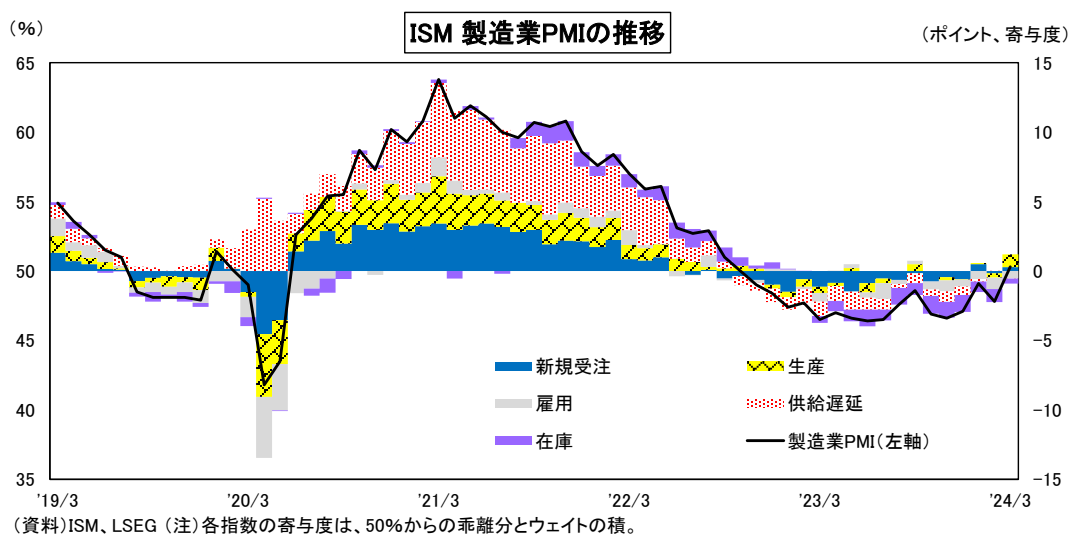
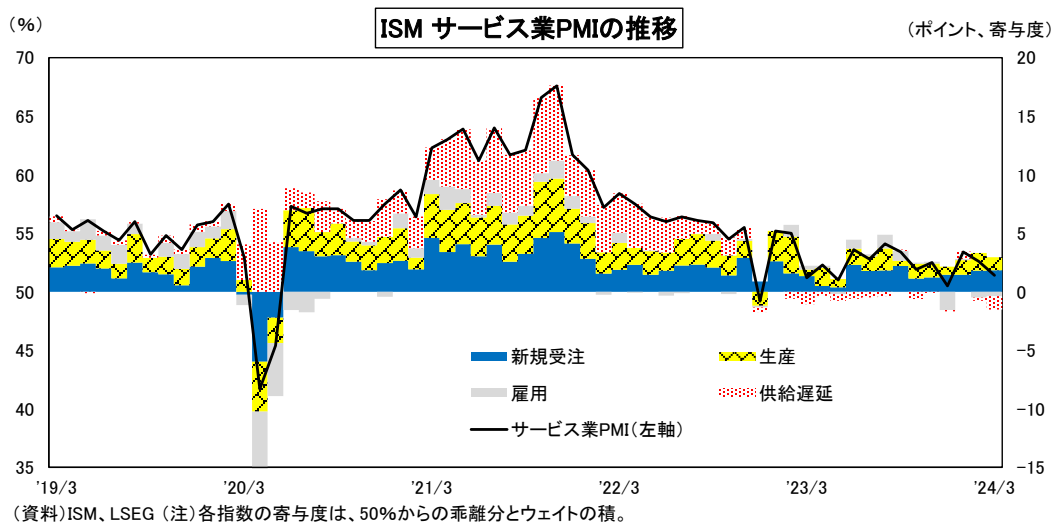


(米国)底堅さが確認された製造業 PMI

1日に公表された3月のISM製造業景況指数(PMI)は、前月から2.5ポイント上昇し50.3%と、判断基準となる50%を17か月ぶりに上回り製造業の拡大局面を示した。内訳をみると、新規受注、生産、雇用、在庫が同2.2、6.2、1.5、2.9ポイントの上昇となり、供給遅延は同0.2ポイント低下した。それ以外の指数としては、価格指数が同3.3ポイント上昇の55.8%と3か月連続で50%を上回り、製造業部門の価格上昇圧力がうかがわれる。



3日に公表されたISMサービス業景況指数は、前月から1.2ポイント低下の51.4%となったが、判断基準となる50%を15か月連続で上回っており、サービス業の拡大局面が続いている。内訳をみると、雇用が同0.5ポイントの上昇となった一方、新規受注、供給遅延、在庫はそれぞれ同1.7、3.5、1.5ポイント低下した。その他の指数の内、価格指数は同5.2ポイント低下の53.4%となり、価格上昇は続いているものの、3月はサービス業のインフレ圧力が低下したといえるだろう。



3月のISM指数は、製造業、サービス業ともに雇用の縮小傾向を示しているものの、特に製造業が予想に反して堅調な内容となり、米国経済の底堅さが改めて確認されたといえる。

こうしたなか、金融政策についてタカ派と目されるメスター・クリーブランド連銀総裁とハト派と目されるデイリー・サンフランシスコ連銀総裁は2日、24年内の利下げ回数は3回が妥当と発言した。これによって、「景気とインフレ動向はFRBの想定内」との見解が再確認された形となった。

筆者は引き続き6月利下げ開始を予想しているものの、1、2月のインフレ指標が上振れたことや、3月ISM指数が堅調だったことから、足元の景況感が続くと6月利下げ開始や年内3回利下げは難しい状況となりつつあるといえる。雇用統計やインフレ指標に注目が集まる状況が続くだろう。